

ハスモンヨトウ情報第3号（野菜類）

令和2年10月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病虫害防除室

フェロモントラップの誘殺数が多い状況が続いています！ ほ場での発生状況に注意しましょう！

1 発生状況

(1) 野菜ほ場に設置したフェロモントラップにおける誘殺数は、9月下旬から10月上旬にかけて各地で急増し、平年に比べやや多い状況です（図1）。

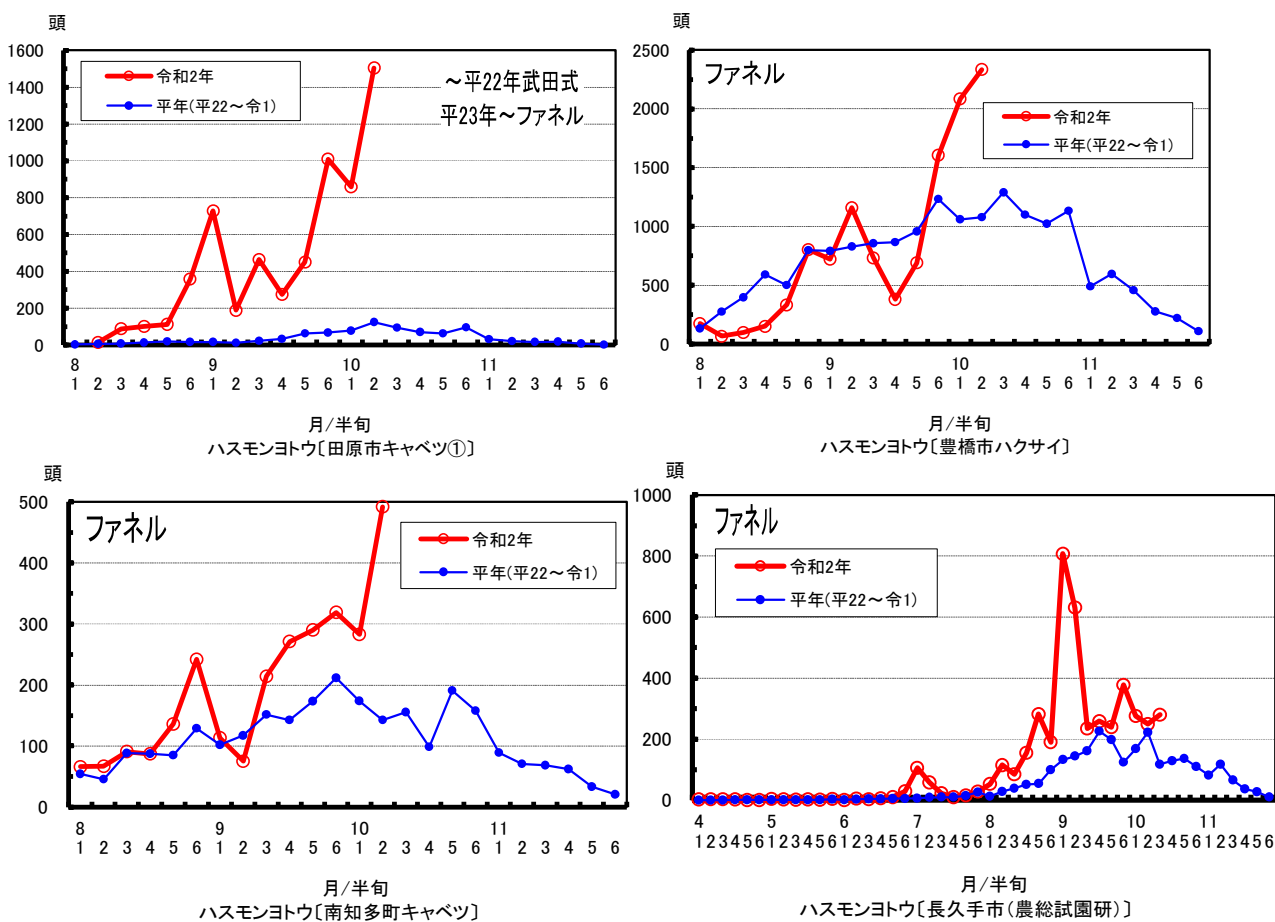


図1 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺数

(2) 10月上旬に実施した巡回調査の結果、キャベツにおけるハスモンヨトウの寄生率は0.35%（平年0.49%、前年0.75%）、発生ほ場率は10.0%（平年12.4%、前年30.0%）で平年並ですが、一部で発生が多いほ場も見られます。

2 今後の予測

名古屋地方気象台 10 月 15 日発表の 1 か月予報によれば、向こう 1 か月の気温は高いと見込まれており、本種の発生に好適な状況が続き、露地での発生が長引くおそれがあります。ほ場での発生状況に注意しましょう。

3 防除対策

- (1) 中齢以降の幼虫（図 2）は、薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、分散前の若齢幼虫期（図 3）に防除しましょう。
- (2) ハスモンヨトウと同時にシロイチモジヨトウやオオタバコガが発生している場合があります。どの害虫が発生しているかよく観察し、適用のある農薬で防除しましょう。
- (3) 薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の薬剤を連用しないよう注意しましょう。また、栽培地域で防除効果の低下が疑われる場合は、別系統の薬剤を散布しましょう。キャベツ、ハクサイのハスモンヨトウに対する防除薬剤については 9 月 16 日発表の「ハスモンヨトウ情報第 2 号」を参照してください。
- (4) 露地でのハスモンヨトウの発生が多いと、施設への飛び込みも多くなります。施設栽培では、施設開口部に防虫ネットを設置して、侵入を防ぎましょう。



図 2 ハスモンヨトウ中齢、老齢幼虫



図 3 分散前のハスモンヨトウ若齢幼虫